

オープンプラットフォーム会議 Vol.2 の開催概要をお知らせします

日 時：令和元年 7 月 20 日（土）15：00～17：10

場 所：ビーコンプラザ国際会議室

内 容：基調講演 / 紫波町図書館 主任司書 手塚美希

ディスカッション / 高橋伸子氏・島津芳枝氏・手塚美希氏・馬場正尊氏

出席者：290 人

うちアンケート回収 179 件（61.7%）（集計結果別紙）

うち質問用紙提出 51 件（詳細別紙）

市長あいさつ

図書館は、これからの子どもたちにも残していける大きな遺産になる

多くの皆さん方の創意で、素晴らしい図書館を作りたい。

さまざまな価値観を持った人たちがいろんな課題や問題を抱えて図書館に来れば、本も読め、いろんな課題も解決ができて、幅広い人たちと交流ができる。そういう場を皆さんの意見を聞きながらプラットフォームとして作っていきたい。

基調講演 / 紫波町図書館 主任司書 手塚美希

演題は、「町と人に寄り添う図書館」

紫波町は、人口約 3 万 3000 人、高齢化率が約 30 パーセントの町である。

なぜ司書になったか。生まれ育った村が、秋田でもっとも高齢化が進み、96 パーセントを山で囲まれた過疎地域の村だった。それも、ただの過疎地ではなくて、情報過疎地であったことが大きな理由である。財政的には厳しいが非常に教育熱心な村で、村が豊かになることについて語る機会があった。そのときに、最新の情報が集まる情報発信基地を作って、老若男女が集まって話し合ったり語り合ったりすることができれば、村が豊かで幸せになるのではないかと考え、ならば自分が村にそのような場所を作ろうと考えた。

当時日本一と言われていた浦安市立図書館の専門非常勤に応募した。面接時に受けた図書館に関する唯一の質問が、「図書館って一言でいうと何だと思えますか。」だった。

紫波町は、循環型まちづくりで紫波の木材を地産地消、家庭の生ごみから堆肥作成、協働のまちづくり市民参加条例制定、市民活動・協働推進などを行っており、これらが下地となって、公民連携によるまちづくり「オガールプロジェクト」の中に図書館ができた。

紫波町図書館の特徴は、30 代、40 代の利用が最も多い。館長含め全員が図書館司書の資格を有し、11 人で図書館を運営している。またオガールプロジェクト全体の特徴でもあるが、デザインコントロールされている。

最も特徴的なことは、コミュニケーションを土台として、情報と人、人と人をつなぐことで

ある。町の情報や世界の情報とその人が必要とする物語をつなげる媒体が、司書である。情報をキャッチして人と人をつなぎ、図書館内では、司書が積極的に話しかけて情報交換をしたり、誰かと誰かを出会わせたり、自然に何か生まれやすくなる。

つなぐためには、地域の実情を知らなければならない。そのために公共も民間も関係なく、まずは自分たちで調べて、人づてに情報を取りに地域に出掛けていく。

月1回の企画展示では、「町で何が起きているか。町の皆さんに何を知っていただきたいか。町のどんな問題が解決できるか。その後、町に何が起きたらよいのか」等を司書が考えて、テーマを設定して、直接、地域に情報を取りに行く。(例：山車の展示、和菓子の型職人、遺影専門画家、認知症相談、森林仕事の担い手育成など)

農業の町なので、農業支援をしているが、農村部の農家さんたちは、車がないと図書館には来られないところに住んでいるので、司書が出向くようにしている。

その町で楽しく暮らすためには、情報が必要である。都市にはない知的刺激を掘り起こし、提示して、知る喜びを獲得できる場所、何かを生み出す場所、図書館はそういう場所であり続けたい。

図書館を一言でいうと「まちづくり、人づくりをする場」というのが、22歳のときに出した答えである。地域、世界、全ての情報と人をつなげ、つながり、町と人の幸せのために図書館なら何ができるか考え続け、実行する。AIの時代が来ても、人がいる限り寄り添い続ける。

ディスカッション / 高橋伸子氏・島津芳枝氏・手塚美希氏・馬場正尊氏

受付時に質問用紙を配布し、休憩中に記入、提出されたものの中から事務局が抽出して、ディスカッションテーマとした。

1 基調講演感想

別府大学司書専門コース学生

自分たちの身内(注：司書を目指すサークル仲間など)だけの世界で考えていたので、ちゃんと外に目を向けようというふうに思った。

高橋伸子氏(松本記念児童図書館「おじいさんのもり」館長)

開かれた図書館、誰もがそこに行けば自分が欲する情報を得ることができる図書館を理想としてきたが、実際にそれを実現されているのは、本当にすごいことだと思った。欲しい人にその情報を届けるということが、私たち司書の仕事だと思ってきたが、それに加えて図書館を基点に「自分たちで稼ぐ」という視点まで持っていることは、やはり新しい。

島津芳枝氏(宇佐市民図書館 司書)

ビジネスライブラリアンとして、「麦焼酎の生産日本一の市」宇佐市の関連情報や医療健康情報サービスをトピックスにした活動を10年以上継続している。住民の話題、課題に対する感性を磨き、これをつなぐことが非常に大切と思った。地元が好きで、地元のよさを理解して、地元に戻ってくるということを知ってもらいたい。

2 質問1「司書が全ての業務をするのか。従来の機能、サービスを拡張させると言うが持続可能な現実的な内容を期待する。」

手塚氏

基調講演で紹介した内容は、全て司書が行っている。もちろん、できないこともたくさんあり、その時々で協働で携わっている方と連携し、どうすればできるかを相談しながら進めている。

高橋

司書が何もかもできるわけではない。棚作りも含めて図書館は利用者の方々がつくるものと思っているので、利用者と一緒につくっている。

島津氏

図書館のサービスに関するものは司書が、それ以外の庶務的業務は事務職の職員が行う。

3 質問2「夜の図書館のようなイベント、これを別府で行うことが可能か。」

手塚氏

どの図書館でも可能である。場を創るだけなので、明日からでもできる。多くの方に関わってもらおうとよい。

4 質問3「この本おすすめという本をいすに置く、どうぞのいすというものがいいな。」

注：9歳女兒の質問。母親の補足説明によると、他の人が薦める本には、普段自分では手に取らないような本との新しい出会いがあるので、そういうことを期待している。

高橋氏

本当にいいアイデア。新しい図書館ができれば、このようなアイデアをどんどん出していただいて実現可能にしていきたい。

5 質問4「市の拠点である図書館は、子どもたち、市民が学び自立していく力を付けていくためには、選書が大事だと思っているが、管理運営も含めてどう考えるか」

島津氏

産業的な構造や人口の構造などによって、選書の区分も変わってくる。管理に関しては、市の直営と指定管理に関しては、それぞれ一長一短がある。指定管理の図書館は大体5年スパンで事業計画・事業予算を立てて実行するので、途中で方針を変えるとか、行政側からこの事業を増やしてほしいという場合に対応が難しいという点もある。

高橋氏

図書館は、本によってサービスする場所で、その根本を忘れてはいけなないので、何にも増して選書がその図書館の質を決めると考えている。変わるものもあるけれども、変わらないものもあり、その変わらないものを担う一つの役割が、図書館の役割だと思う。そのためには、収集方針や選書方針をしっかりと作っていくことが大事である。

手塚氏

市の直営か指定管理かで、本を選ぶ基準が変わるわけではない。紫波町にどんな本が必要か考えるとき、町の基本構想や基本計画、そこからコンセプトと運営方針を出して、それを実現するために、どんな選書方針や収集方針があったら良いかと段階的に掘り下げていった。司書が常日頃、町のことに目を向けたり、いろんな情報を得たりしながら、適切なものを選んでいく必要がある。司書が町のことを一番よく知っている存在になるといい。

6 質問5「従来の図書館のイメージ(静かにしなければならない、まじめな人が行くところ)を変えたとしたら、どのようなことをするか。」

手塚氏

自分とは関係ない場所ではないという空間づくりから着手した。図書館はハコモノではなくて、装置だと思う。まずは旧来の図書館のイメージを破るアイデアが出て、自分の図書館、自分の場所だと思えることが大切だと思う。

アメリカの図書館では、軽犯罪を犯した方のために弁護士やソーシャルワーカーが常駐したり、レファレンスそのものがソーシャルワーカーの役割を果たしたり、よろず相談所みたいになっている。何の課題があって、どんな人たちがいて、それを解決するためには、何をしたらいいのかという発想や視点からいろんなことにチャレンジできるとよい。

質問・意見

会場意見1

「赤銅御殿をイメージした外観の建物を作り、雨の日は建物の中で、天気の良い日は、外で本を読むようなものができるとよい。」

手塚氏

紫波町には、図書館前に芝生広場があり、いろんなことができる。子どもたちが楽しめるものがあるといい。

会場意見2

「図書館に求められる役割が、100年前の本の集積場所という概念から、地域や社会のコミュニティとのつながりまで求められる時代にどう機能できるかが重要と思う。図書館を行政インフラとして連携させ、かつコントロールができる部門が担当するのが適当ではないか。」

馬場氏

新しい図書館を作るための組織論として、行政の方にしっかり届いたと思う。

会場意見3

「個人の家に埋もれている郷土資料を、行政が保存するように要望する。」

馬場氏

眠っているかもしれない地域の資産を探す、見つけ出す機会にもなればいい。